

(公社) 熊本県建築士会 女性部会 ～かわら版～

第16号 平成30年10月 発行

◆住まいづくりの無料相談会◆

毎月第4土曜日の13時～16時、鶴屋デパート本館5階
インテリアカウンターにて無料相談会を開催しております。
みなさんも相談員として登録してみませんか！

〈対応して下さった相談員の皆さん〉

- 7月 田中弘子さん、松永直美さん
- 8月 萩尾洋美さん、吉田智佳子さん、山下恵子さん
- 9月 白浜美奈子さん、下野明希子さん

ありがとうございました。



【告知】「熊本地震 益城町断層見学ツアー」 のお知らせ ※CPD 認定4単位

- 日時 平成30年11月4日(日) 11:20～16:30
益城町グランメッセ 1Fエントランス集合・解散
※見学会のみ参加の方は 12:40にお集まりください※
- 場所 益城町 各所
- 定員 20名程度(先着順、家族での参加歓迎)
- 参加費 ランチ代のみ 大人1,000円 小学生以下800円
※ランチ会場:GRANDIR(グランメッセ内)
- お申込み・お問い合わせ
女性部会 企画委員会 担当 谷口
TEL 090-4473-5494 E-mail build_nori@ybb.ne.jp
- 申込期限 平成30年10月30日(金)
- 主催者 (公社)熊本県建築士会 女性部会(企画委員会)

熊本地震で最大深度7に2度も襲われた益城町。復興へ進んでいる益城町ですが、地震の爪痕もまだまだ残っています。その中でも、地震でできた断層は、今だからこそ、見ることが出来る貴重な産物だと思います。地震の脅威を後世へ伝えるために、益城町の断層を見学することを企画しました。折角の機会なので、ランチ会も合わせて開催致します。ワイワイガヤガヤとざっくばらんで有意義な見学会としたいので、女性部会の会員だけに限らず、ご家族、友人の方もお誘いいただき奮ってご参加ください。見学会からの参加も可能です。

◆「熊本地震 生活再建（住宅再建）について共に考える意見交換会」報告



去る7月16日(月)18時より熊本県建築士会会議室にて、総勢15名の方が参加され意見交換会が行われました。(女性部会からは4名参加)
不動産に携わっている方、行政、設計者、施工者等様々な立場の建築士に加えて被災者支援団体の方々大学関係者など色々な業種の方のご意見を拝聴できました。今後もこのような会を継続して開催していきたいと思っています。皆様ぜひご参加ください。

わたしたちは「いつでも、誰でも、気軽に」をモットーに、全員が参加できる部会活動を目指しています。女性部会の最新情報はfacebookで随時更新中！
【熊本建築士会女性部会】で検索♪

女性部会FBのQRコードはこちら👉



熊本地震を経験して

平成28年4月14日に前震、16日には本震と2度の大きな地震に見舞われた熊本地震から2年半が経ちました。あの時、私たち女性建築士がどのように感じ行動したのか、記録の第6弾です。

熊本震災 ～震災直後～

応急危険度判定開始

持田 美沙子

人吉支部
松下生活研究所所属



17日から応急危険度判定に参加した。会場に行くと全国各地から応援に駆けつけてくれた行政マンの防災服姿が目映った。行政のつながりを感じ、また、初めての応急危険度判定に不安を感じながら、説明を受けた。

益城町の一番被害が大きかった辺りを回る。ほとんどが一目でわかる全壊状態で、赤い紙を貼り続けた。被災された方々で敷地のお隣の小屋に避難されていた世帯もあり、倒れた建物の中から何とか外に出られたと、被災直後の様子を語ってくれた。

応急危険度判定は、2次災害を防止するために行うもので、現状が危険な状態であれば「赤」の紙を貼ることになる。しかし、ニュースでは赤紙=壊れる建物的な報道が続き、憤りを感じた。建物の持ち主の方のために、なるべく丁寧にコメントを残すようにしたが、「赤」というだけで全壊のイメージを持たれるようである。2018年の大阪府北部地震、北海道胆振東部地震でも、応急危険度判定結果について熊本地震同様の認識が多いようで、対策の必要性を感じた。

また、行政主導で県内の建築士が参加し実施したが、他県の建築士ももっと参加しやすい流れを事前に準備することも今後の課題ではなかろうか。

続く・・・

※女性部会では熊本地震の体験やその後の活動を書いて下さる方を募集しています。熊本県建築士会事務局(までご連絡ください。TEL 096-383-3200
メール LEB03540@nifty.com

熊本震災～1年後～

chaos からの脱却

谷口 規子

女性副部会長 宇城支部
(株)ビルド総合設計



地震後、幾度となく起こる余震に慣れ、たまの大きな余震に驚いていたのは1年後くらいだっただろうか。震度1以上の余震は1年間で4000回以上だったらしいから、異常な日々を過ごしていたのだと思う。地震直後の混乱していた時期を超えると、次に待っていたのは経験したことのない仕事の山だった。仕事の内容も、その量も。

実は、地震が起こる直前に、熊本県と宇土市に指名願の届出を出していた。「何年かしないと声がかからないよ」という噂話を聞いていたが、災害査定、被災度区分判定、耐震診断、被災建物の復旧設計に多く携わるようになった。それまで、民間の仕事がほとんどだった為、公共事業の設計の進め方に慣れるまでは、とても大変だった。

急に災害対応の仕事が加わり、構造設計だけ行っていた時とは勝手が違う。限られた時間の中、色々な分野の知識を求められるし、多くの人に係る場合は各方面への調整力も求められる。毎日のように、自分の力不足を感じた。それと同時に、色々な方に教を乞い、また協力事務所や協力業者の方々の力を借りながら、自分自身、また、経営する設計事務所としても、少しずつ経験を重ね成長できたことは、周りの方々に恵まれていたからで、とても有難いことだと思った。休みなく働き、正直に言えば、少し疲れてはいたけれど、充実した日々を過ごしていたように思う。

(続く)